

小説などからみた伊達騒動

仙台市博物館 学芸企画室 佐々木徹

第12回 (最終回)

世間を騒がせた伊達騒動

伊達騒動は、伊達綱宗の不行跡と強制隠居に始まり、原田甲斐宗輔による幕府大老酒井忠清邸での刃傷事件でクライマックスを迎えました。

仙台藩という大藩が江戸で起こしたスキャンダルは社会へ衝撃を与え、原田がなぜ突然刃傷に及んだのかなど、謎が謎を呼んで世間を大きく騒がせました。そうした関心は、文学作品や演劇などの世界にも波及し、社会に広く浸透していくこととなります。

江戸時代の世評と伊達騒動物

寛文十一年（一六七二）三月の刃傷事件のち、延宝年間（一六七三〜八一）に記された大名の評判記には、勇将だが不行跡な綱宗、悪事が増して、藩内に不和をもたらしした伊達兵部宗勝、その状況を忠心から幕府へ通達した伊達安芸宗重といった記述がみられます。伊達騒動にまつわる人々への一定の評価が、刃傷事件直後から世間で取り沙汰されていたことがわかります。

享保年間（一七二六〜三六）になると、

「縦ノ木は残った」

伊達騒動を題材にとった実録体小説が記されるようになります。これは実録物とも呼ばれ、実際にあった事件などをもとに風説や創作なども交えて記された書物のことです。実録物は歌舞伎や浄瑠璃の種本となったり、逆にこうした演劇の内容が実録物へ影響を与えたりもしました。伊達騒動は、「伊達騒動物」というジャンルができるほど多くの物語が生まれました。

これら伊達騒動物のストーリーで主流だったのが、酒井忠清と伊達宗勝が策謀して藩主綱宗を隠居させるなどし、仙台藩の乗っ取りをたくらんでいたとする酒井忠清・伊達宗勝陰謀説でした。そして、それに付随する伊達宗勝・原田宗輔逆臣説、それを上訴によつて防いだとする伊達宗重忠臣説が定型的な解釈でした。

縦ノ木は残った

これに対して、明治時代以降になると原田忠臣説・宗重逆臣説が現れ始めます。田辺実明『先代萩の真相』（一九二二年）や真山青果「原田甲斐の最後」（一九三一年）などの作品です。

特に、原田忠臣説として著名なのが、NHK大河ドラマの原作にもなった山本周五郎

『縦ノ木は残った』（一九五八年）です（ただし宗重忠臣説もとる）。すべてを自分が引き受ければ大老酒井は仙台藩に手出しできない、と考えた原田が酒井邸で刃傷に及び、「私です、私が逆上のあまり」と言い残して絶命する筋書きです。

伊達騒動は、あまりにも劇的な大事件であったがゆえにさまざまな想像をかき立て、大衆文化として全国に伝わり、諸説紛々の物語として長く語り継がれてきたとも言えそうです。



刃傷の場面を描いた浮世絵 明治9年(1876)に上演された『早苗鳥伊達聞書(ほととぎすだてのききがき)』を題材としたもの 仙台市博物館蔵

次号からは新コーナー「のぞいてみよう！せんだいの歴史」仙台の絵画編」がスタートします。

天理大学附属天理参考館・天理図書館 創立90周年 特別展

詳細は、博物館ホームページでご案内しています

大航海時代へ

— マルコ・ポーロが開いた世界 —

To the Age of Exploration: the World Marco Polo Pioneered

2024.7.6(土) ~ 8.25(日)

【資料名】星座帳 ヨハン・バイエル著、地球儀 カスバル・フォエル作(どちらも天理図書館蔵)

再開館記念企画第2弾

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

【開館時間】9:00~16:45(入館は16:15まで) ▶博物館ホームページ 仙台市博物館 検索

【休館日】毎週月曜日(ただし7/15、8/12は開館)、7/16、8/13 ▶博物館X(旧ツイッター) @sendai_shihaku

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074